

経済マンスリー [西欧]

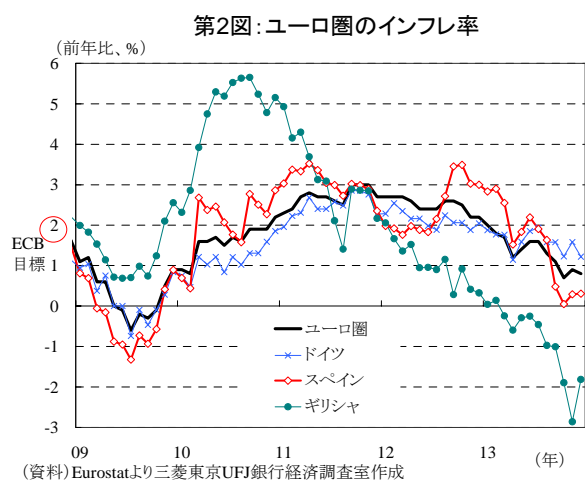
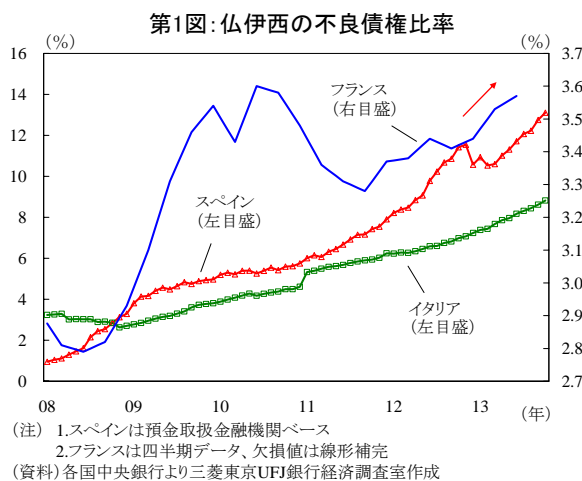
持ち直しの動きをみせるも、依然脆弱性を抱える

欧州経済は持ち直しの動きをみせている。ドイツは 2013 年の実質 GDP 成長率を前年比+0.4%と発表、3年連続の減速となるが、第4四半期については前期比+0.25%程度と3期連続のプラス成長を維持した模様である。また、スペイン中銀は 2013 年第4四半期の実質 GDP 成長率が前期比+0.3%になったとの推計を発表しており、2期連続のプラス成長が見込まれる。さらに、購買担当者指数（PMI）や、鉱工業生産は、ユーロ圏が3期連続のプラス成長を維持したことを示唆している。イタリアでも10期ぶりのプラス成長となる可能性が高い。

周縁国政府の資金調達環境は引き続き改善している。アイルランドは昨年末、金融支援プログラムから脱却し、1月にはシンジケート団を通じて10年債を発行、旺盛な需要も確認された。6月に金融支援の期限を迎えるポルトガルも、シ団を通じ5年債の発行に成功したほか、スペインも同様の形式で10年債を100億ユーロ発行した。

一方、ユーロ圏経済は依然として構造的な脆弱性を抱えている。不良債権比率をみると、スペインやイタリア等の周縁国のみならず、フランスでも上昇しており、欧州金融セクターの苦境は続いている（第1図）。また、ユーロ圏の消費者物価指数は12月に前年比+0.8%と、周縁国における構造調整に伴う下押し圧力もあり、低水準が続いている（第2図）。低インフレの長期化は、債務の返済負担を重くし、民間部門や政府のバランスシート正常化を遅らせるだけでなく、インフレ期待を危険な水準に引き下げる虞がある。

こうしたなか、欧州中央銀行（ECB）は1月の定例理事会で政策金利を過去最低の0.25%に据え置いたが、ドラギ総裁は、フォワード・ガイダンスに関する文言を強化することにより、金融緩和バイアスを若干強めた。①中期的なインフレ見通しの悪化、あるいは②正当化されない短期金融市場の逼迫に対しては、追加緩和を辞さない意向を示している。



照会先：三菱東京UFJ銀行 経済調査室 竹島 慎吾 shingo_takeshima@mufg.jp
大幸 雅代 masayo_taiko@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくご申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。